

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

令和2年度 第3回浜松市障がい者自立支援協議会東エリア連絡会全体会議録

- 1 開催日時 令和3年3月17日（水） 午後1時30分から午後3時50分
- 2 開催場所 浜松市東区役所31・32会議室
- 3 出席状況 ○出席委員 (敬称略)
障害者相談支援事業所ひがし：長谷川
ウイズ半田：斯波
包括支援センターさぎの宮：河合
浜松市教育委員会SSW：根木
浜松医科大学附属病院：豊田
知的障害者相談員・浜松手をつなぐ育成会：高林
民生委員児童委員：清水
社会福祉法人社会福祉協議会：富田
東区社会福祉課：鈴木、久野
オブザーバー 基幹相談支援センター：雨宮、松井
- 4 傍聴者 3人（一般：3人）
- 5 議事内容 (1) 第2回市全体会の報告、玉木
(2) 短期課題検討部会の報告、三嶋
(3) 当事者意見交換会の報告、玉木
(4) エリア研修会の報告、平野
(5) ネットワーク会議の報告、玉木
(6) 事例検討会の報告、三嶋
(7) 次年度の組織体制について、平野
- 6 会議録作成者 東区社会福祉課障害福祉グループ 久野加津夫
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

1 開会

会の成立 (出席人数の報告) 構成員の過半数出席

あいさつ 東区社会福祉課 鈴木課長

傍聴者の承認

2 議題 (進行：浜松東障がい者相談支援センター：玉木)

(1) 第2回浜松市障がい者自立支援協議会市全体会についての報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

第2回浜松市障がい者自立支援協議会市全体会が、令和3年1月18日に開催された。

各専門部会の活動状況報告があった。権利擁護部会の虐待対応ワーキングでは、虐待窓口をどこに置くか、スキームを検討中。来年度も引き続き検討してゆく。地域生活部会のこどもワーキングでは研修会を開いた。こどもに対するアセスメントツールを作成してゆく。来年度も引き続き活動してゆく。

各エリアの活動状況について報告があった。

「第6期浜松市がい福祉実施計画及び第2期浜松市障がい児福祉実施計画について」のパブリックコメントが実施された。

<意見：ウイズ半田：斯波>

いつも思うのだが、パブリックコメントの募集期限が短い。公開前に説明会を開くとか、読み合わせの機会を持つとか、やり方を検討して欲しい。

(2) 短期課題検討部会の報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：三嶋>

「共生型について」というテーマで、令和2年12月25日に検討部会を開いた。

<ウイズ半田：斯波>

当施設でも、年齢層が下は18歳、上は80歳と広く、一人で視覚と知的の両方の障害を持つ障害者がいる。高齢者を受け入れている障害者施設がどれくらい有るのか、有るとしたら、どういう形で受け入れているのか調べてほしい。

<浜松東障がい者相談支援センター：三嶋>

高齢者であっても、工賃が発生する障害者施設が有ると聞いた。

<包括支援センターさぎの宮：河合>

他の市町の例で、話題として聞いたことは有るが、市内では聞かない。

<ウイズ半田：斯波>

65歳以上は介護保険を利用する、というのは飽くまで「優先」なのであって、どちらか一方の選択ではないと思う。障害者福祉と介護保険をうまく組み合わせてゆけるとよい。一人の人間が、障害者であり、かつ、高齢者

という複数の要素を持つことが、これからは当たり前になってゆくはずだ。

(3) 当事者意見交換会の報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

第1回の意見交換会では、各障害の種別ごとに困り感が違うことが分かったので、2回目の意見交換会では、障害種別ごとに相談員さんに集まってもらった。

3月の上旬には、相談支援センターの玉木と大軒が、明生会の相談員の集まりに参加して、各相談員が抱える問題を聞いた。そこでは、情報の周知不足や会員数の減少といった問題があることが分かった。

来年度は、意見交換会のあり方を再検討して、どういう方法で意見を吸い上げてゆくか考えてゆく。

<知的障害者相談員：高林>

育成会の現状として、訂正させていただくが、全体の会員数は増えている。ただ、役員の受け手がいなくて困っている。

次第の順番を変更して「(5) ネットワーク会議の報告」を先にした。

(5) ネットワーク会議の報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

東エリア連絡会のPR動画を、ユーチューブのはままつチャンネルで配信中。3月15日現在の再生回数は145回。視聴した方から感想を伺いたい。

<感想：社会福祉協議会：富田>

東区の障害者関係者には、こんな人たちがいるのか、たくさんの人々がいるなあと思った。

<感想：東区社会福祉課：鈴木>

エリア会議の成り立ちや組織について、分かりやすく解説されていた。また、堅苦しくなくて、親しみを持ってもらえるような作りになっていると思う。

<浜松東障がい者相談支援センター：玉木>

まだ見ていない方には是非見てほしい。

(4) エリア研修会の報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：平野>

令和3年3月2日に、聖隷クリストファー大学の佐藤順子先生を招いて、「皆が住みよい東区へ～令和に求められる地域力～」というテーマで研修会を開催した。障害者が地域社会に受け入れられてゆくには、グループホームの入所者等が、地域の活動やイベントに参加することによって、差別

や偏見の解消に有効だと感じた。また、全国では、まだ 50%しか地区社協が組織されていないことを知った。

<感想：民生委員児童委員：清水>

先生の話は、よく理解できた。地域支援の体制づくりが遅れていると感じた。

<感想：社会福祉協議会：富田>

実際に、障害者が地域活動に出てきていないことが課題だ。

<意見：ウイズ半田：斯波>

最近、いろいろな制度やサービスがたくさん出てきているが、本当に必要な人には、その情報が届いていない。例えば音声時計があることすら知らない人が多い。支援を必要とされる人を、いかに発掘するかが課題。当施設では、眼科医とネットワークをつなぐことに取り組んでいる。

行政へは、障害者手帳の給付時に、相談員の紹介を徹底してもらいたい。

<東区社会福祉課：鈴木>

貴重なご意見ありがとうございます。

必要とされる障害者に情報が届いていないことに関しては、担当職員も日々感じている。サービスも多種多様になってきているので、「障害福祉のしおり」の冊子もだんだん厚くなっている。手帳給付時の説明に1時間ほどかけているが、説明を受ける側も、情報量が多く過ぎて頭に入っていないのが現状である。できるだけ情報が行き渡るように周知してゆきたい。

<ウイズ半田：斯波>

障がい者相談支援センターも開設されたことだし、センターへ話を振ってしまえばどうか。

<浜松東障がい者相談支援センター：玉木>

社会福祉課との連携を考えてゆきたい。

(6) 事例検討会の報告

<報告：浜松市東障がい者相談支援センター：三嶋>

今年度は放課後等デイサービスの事業所へ訪問した。その際、事業所側が学校や相談支援事業所との連携について課題がある様子だったので、令和3年3月12日に、放課後等デイサービス事業所・学校・相談支援事業所の三者が集まる事例検討会を企画したが、コロナの関係で延期となった。来年度には開催したい。

(7) 次年度の組織体制について

<説明：浜松市東障がい者相談支援センター：平野>

市協議会の目標は、今年度と同じく「支え合いによって、住み慣れた地域で希望を持って安心して暮らすことができるまち」。

東エリアでは、今年度はコロナの影響もあって、研修会、事例検討会、全体会が年度末に集中してしまったので、来年度はもう少し計画的に取り行ってゆきたい。

なお、令和3年度の東エリア連絡会全体会は、令和3年5月19日（水）に第1回目を予定している。

また、障がい者相談支援センターでは、センター長の玉木が異動になり、4月からは平野がセンター長になる。

14：25休憩

休憩 10分

14：35再開

3 グループワーク（進行：浜松東障がい者相談支援センター：平野）

今までの全体会で、各構成員から出された課題について、課題整理表にまとめて、相談支援センター内でも話し合ってみたが、相談支援センターだけでは、なかなか解決策が見出せそうも無い。そこで、構成員の皆様の知見をお借りしたい。ホワイトボードに貼り付けた各課題について、今すぐできること、まだやっていないこと、具体的な事例や意見・要望等を、A4用紙にマジックで書き出してほしい。

構成員から多数のヒントや意見が寄せられた。今後の参考にする。

4 閉会